21PO-am382S

薬物乱用防止教室によるライフスキルの変化

○堀内 沙莉[1], 佐藤 礼菜[1], 庄野 あい子[1], 赤沢 学[1]（[1]明治薬大）

【目的】「ライフスキル」に着目し、小学校において薬物乱用防止教室を実施した。ライフスキルとは、「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」である。本研究においては、2 時限の授業前後における「ライフスキル」の変化について明らかにすることを目的とした。

【方法】小学校において 6 年生を対象に、90 分間の授業を行った。授業は劇の形式をとり、喫煙、飲酒、薬物について、発表者が小学校 6 年生に扮して問いかけを交えながら行った。授業の前後に、ライフスキルについての質問紙調査を行った。調査は、自記式とし、ライフスキルに関わる行動や態度に関する計 16 問について、5 段階自己評価とした。なお、授業前後は同じ質問票とした。検定はウィルコクソンの順位和検定を用いた。

【結果】「友達に自分の考えを伝えたい時、相手が内容を理解できるようにきちんと伝えることができる」の質問項目のみ統計的に有意な差が認められた（$p<0.05$）。他の設問では認められなかった。

【考察】仮説に反して「お酒、タバコ、薬物をすすめられた時、ことわることができる」の項目においては、ライフスキルの変化は示されなかった。授業実施前にすでに当該項目において自己評価が高かったことが、理由として考えられる。また、「友達に自分の考えを伝えたい時、相手が内容を理解できるようにきちんと伝えることができる」の項目にプラスの変化が見られたのは、劇を通して友達から危険な行動を勧められた時の断り方や、なぜ危険であるかを実際に見て学んだことができたことが理由として考えられる。授業実施直後はライフスキルの向上がみられた。時間による変化については、更に検討が必要である。